



# 四月号

今月の十人十一

犬飼犬太

佐藤橙

夜月雨

全美

彩結ゆあ

森屋たもん

武井窓花

ただのたなか

きんかく

深山睦美

吉田岬

発行人 吉田岬

二〇二五年四月十日 発行

## 春の休日 佐藤 橙

買った絵を上手く説明できなくてそれでも好きでリビングにある「らしさ」とか自分ではよくわからない昼寝が趣味でも驚かれない休日の君の予定が埋まって埋めて良かったなって思うよ親友と同じ名前のリスナーが私の知らない恋をしている手紙っていくら書いても許されるけれど出すには要る送り先君の顔紙幣に刷って使わずに大金持ちになって死にたい晴れの日は寝坊したって大丈夫洗濯物もなんとか乾くアパートの鍵につけてるペンギンの方が成長してる気がする噴水を君と見ている「水だ」しか浮かばないけど帰りたくない消えにくい内出血のような恋言えないことっていっぱいあるよ

## 旅する 全美

朝日受け舞う埃ごと他地へと乗り入れていく私と電車音漏れのヘッドフォンからピアノ曲しばし隣に喫茶ルノアールあちこちで響くくしゃみの音階は少し高めで春めいている車窓には田園と背後から覗きに來る知らんおじさんの影旅先でイオンを見つけてホッとする行くことは決してないけど靴には食べようとして結局食べられない浮かれたお菓子たち早足のように進む電車には昨日の言葉に遅延する私私にははじまりだけど別な誰かには終わりに近づく駅舎東京にのこした可愛い猫のこと考えるだけで曇る春空履き慣れた靴は少しすり減って他所の土地の住人ヅラする

## 赤に触れる 犬飼 犬太

藍色の仏間 遺影に手を合わせ毎夜感謝を述べる祖父の背「止まってるなんて赤なの?」「警告さ。死に近づけば赤は出てくる」ランドセル置いて向かった 行かないと約束してた森の探検一面の彼岸の花に魅入られて五時のチャイムで正氣に戻るイタドリやススキを踏んで作る基地 秘密の魔力恍惚として帰り道腹が裂けてたミケを見て誰か笑った、ぼくのうしろで赤銅の落ち葉の下に転がった無数の石の顔、顔、顔、顔走ってる理由も知らない妹の右手で踊る毒の花束静脈の色した僕の思い出は中身を見れば赤が溢れる分らない知らない見ない方がいいばかりの世界なのに今夜も

## Bulimia 夜月 雨

退屈と空腹はよく似ている ねえねえ、僕はあまいものが好きだよ? 人様の不幸は蜜の味らしく、三文芝居に降らせる honey 負け犬のワルツを見てる 三個目の味のない biscuit を噛る お砂糖は多ければ多い程良い、愛憎劇にぶち撒ける suger 十個目の white chocolate あーあ 愛なんて妄想だ、踊れよ 食べたってどうせ足りない毒でも皿でもぜんぶ食べちゃう ほらほら寄越せ! 夢見がちな勸善懲惡笑っちゃう、べちよりと溶ける cotton candy 三十個目の whiskey bonbons はあ 正義は酩酊、さっさと吐けよ 負け犬の遠吠えを聞く 百個目の apple pie を齧って捨てる 絶望は最っ高の蜜 ほらほらほら! あまあいお菓子をもっと頂戴♡

スーパーの中では何でも売っていて99%は買えない  
 アパートの前が通学路なことに初めて気付く出社しなければ  
 立ち読みで得た見聞を弟にLINEしようと思つてやめた  
 労災は下りないらしい残業のあとに勝手に事故った奴は  
 カーテンの代わりに買った百均のブルーシートから漏れ出る朝日  
 四千円した診断書無駄だった額縁に入れて便所に飾る  
 図書館のコスパの良さを妹にLINEしようと思つてやめた  
 コストコにいる人たちが節約をしてる設定に強い違和感  
 質感を確かめたくて触ってる買えないことだけわかる革ジャン  
 原チャリのタイヤに空気を入れに行く直してあげられるものは直す

春 むしろ止まっていいよこんなにも花が咲く日々ゆっくり生きて  
 カーテンのサイズに妥協しない春はなうた気づけば校歌を鳴らす  
 花を買う理由素直になれなくて 前ならえの号令がきらい  
 ありがたい陽ざしを睨みつけるひときつとよく傘忘れているひと  
 なにもかも眩しい春に最新のiPhone あまり役に立たない  
 だめなことなんてないよと言いつつ桜は私に手本を魅せる  
 言い訳と理由はちがう 大切なものはしつこくうるさく愛せ  
 猫なでる猫も私をなでる午後それでも寂しくなって 耳かき  
 口笛はいつまでも音そのままで誰かに届いて救つてあげて  
 都合よく春を舞うコンビニ袋 会いたいひとに会えるといいね  
 水たまりを避けずに歩けるようになりやつと花買う私のために

ほぼ無いと言える明太で明太フランスパンを名乗れるのなら  
 愛されていないと吐きたるきみが買う160円の自販機の水  
 移動より輸送って感じた、満員の電車で笑う広告の誰か  
 喫煙所のかつては白の蛍光灯それに照らさるジャスミンティーよ  
 友達を見送るために羽田まで。あくびはしたけど寂しいんよ  
 ほら見なさい私こんなに綺麗でしょ？みたいな顔の月に照らされ  
 一日のタスクを上司に報告す「生きる」と書くほどまだひねくれず  
 標準語で怒られている最中に窓の外では電線に鳩  
 二回ほどつまづいたりはしたけれどコンビニでケーキを買ったりしたい  
 まだ誰も部屋に招いたこともなくこんなものでもパスタと呼んで

飛ぶ鳥を落としてみてはそのあとにひとりしずしず泣くのでしょうか  
 花ばかり並べられててばかりかみたいまるでわたしの死後かのように  
 要するにここは誰かの楽園でだからしずかに背を向けましょう  
 モノクロの視界の隅にひかるものがあつてそれは父さんの蝶  
 外国の女の人の歌う歌ほんとうは誰もさみしいのに  
 空っぽのペットボトルに水を足す何もかも偽物なんでしょか  
 退屈な犬の仕方のない午睡流れない雲が空に張りつく  
 燈し油はもういりませんあなたから私への手紙もいりません  
 春だって言えばすべてが許されるような気配だまたの冬まで



ロボットは挨拶のたび「ビームとか出るの」と訊かれ、とうとう出した  
現地語で中指という意味のあるお菓子を置いて職場を去った  
ロボットに職を追われた人にしか奏でられない音楽がある  
希死念慮をロボットどもに学ばせろより人間に近づけるため  
ゆびきった（小指を切った）魔法では君の病気は治せないかも  
吐瀉物に群がっている駅の鳩きみの魔法で花を咲かせて  
バイバイと言って光の粒になる先に攻撃したのは君だ  
「今あなた 機械は死ねと言いました 認めてくれた 機械に命を」  
とても大きな車輪がひとつ転がって全ての人が平等になる  
線路内人立ち入りの影響で立ち入る人に思いを馳せる

光量が春を示している朝に雪解け流れ出した目頭  
指名手配ポスターの傍をかがやきが光速未満で通過致します  
優しいの憂いばかり携えて傷つけられたらつけてもいいよ  
包まれていないと寂しくなるどんな座席であつても端から埋まる  
であるなら冬の全ては鯨幕が滲んだ姿なんじゃないかな  
ひとしきり開かれている文明の各所に取り残されてる桜  
生きることは巡ることだと知りながら僕はあなたを留まらせた  
醒め際に春はぼやけて夢でなら夢でなら手を（アラームの音）  
涙脆いわけじゃないけど決壊と呼ぶにはかない鳴咽あります  
まぶたのある生物だから死ぬことが略式逃避のような春眠

## 五 追憶 吉田岬

海という名前の人を知ってから海を詠むたびあなたが浮かぶ  
人間の価値観だったら泡になることは不幸にあたると知った  
魂の器でしかない肉体の形をふたりはよろこびあった  
ここは海 海海海海海海 じゃあここは？海。あなたがくれた  
ピザが好き あなたがピザをうたうときすこしはぐれる耳鳴りが好き  
いつか来るガスマスクした日常の前にあなたの自撮りがほしい  
プリキュアにやつと男があらわれて魔法少女になったかかった僕は  
パーマンは人間じゃなくてもなれるそういうやさしいなかがあつた  
あらずしも忘れたたこ焼きマントマンのテーマはいまもふいに出てくる  
追憶は匂いとわたし、言いました。わたしはネロリ 覚えておいて

### X account

犬飼犬太	@kenta_inukai
佐藤橙	@satohsatoh2677
夜月雨	@imber_nox
全美	@ZENMIN15
彩結ゆあ	@iromusubi_yua
森屋たもん	@monsontanka
武井窓花	@tanka_madoka
ただのたなか	@Shironopa_ka_
きんかく	@kingkaku_tanka_
深山睦美	@57577_77575
吉田岬	@tankaofmisaki

